

千代田区立障害福祉センター  
えみふる

# ANNUAL REPORT

## 2020

いま、できることから。

2020年度 年次報告書

社会福祉法人武蔵野会



# えみふるアニュアルレポートのコンセプト

千代田区立障害者福祉センターえみふるの“えみふる”とは、「笑みがあふれる」という意味です。利用されている方、地域の皆さんの笑みがあふれるような温かい支援を提供しています。

2010年に社会福祉法人武蔵野会が指定管理者として運営を開始し、2020年からは新たな10年がスタートし、「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げています。そして障がい等のあるなしに関わらず、その人らしさが尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現へ向けて支援を充実させます。私たちは、人と人との絆が地域社会の基盤であると考え、絆社会の実現によって地域を活性化させ、千代田区に関わる皆さまを元気にできる施設を目指します。

私たちは、そのミッションを実現させるために10年間の事業計画と目標(ロードマップ)を作成しました。そして毎年、活動内容の成果や進捗をわかりやすくお伝えするため、年次報告書(アニュアルレポート)を発行することにしました。

本報告書によって、より多くの方に千代田区立障害者福祉センターえみふるについてご理解を深めていただき、今後ともご協力いただけますと幸いです。

## 2020年度テーマ「いま、できることから。」



2020年度は、未曾有のコロナ禍でこれまでできたことが当たり前ができなくなり戸惑うこともありましたが、利用者、千代田区に関わる皆さんに必要なサービスを届けるべく「いま、できることから。」やれることをやっていこうと1年間取り組んでまいりました。

表紙は利用者の方、そして職員が押印して、「絆社会」のつながりをイメージして作り上げました。

# 2020年～2030年 えみふるロードマップ17項目



千代田区立障害者福祉センターえみふるが取り組むべき課題を17の項目に分けています。

1 交流人口はえみふるで交流をしている利用者の数、2 地域活動支援センター、3 ぷらっと御茶ノ水(サロンドウちよだ)、4 日中一時、5 グループホーム、6 ショートステイ、7 生活介護、8 基幹型相談支援、9 特定相談は障がい福祉サービス事業で、公的なサービスだけでなく、えみふる独自で行っている障がい者が直接利用出来るサービスも含まれています。

10 社会貢献、11 企業、12 大学、13 アダプテッド・スポーツ、14 人材育成、15 ボランティア、16 障がい者文化の発信、17 福祉防災機能は、障がい福祉サービスに限らず地域とえみふるがどのようにつながり、地域を活性化させていくのか、その取り組みとなります。

障がい福祉サービス事業、地域貢献事業の運営をしていくことがえみふるの社会的責任と考えています。すべての人が親しみや尊敬の感情を持つことができるように様々な機会を提供し、人びとが点から面へとつながる共生社会すなわち「絆社会」の実現を目指します。

# 2020年度 「いま、できることから。」 17項目解説

2020年度の事業を総括・分析し、10年後の目標達成に向けて、来年度以降の目標を記しています。また各事業、人数や利用率など数字を2019年度と比較し、どのように変化をしているのか分析を行っています。一目でわかりやすいように「笑みふる」マークで成果を以下のようにあらわしています。

 = 達成  = 維持  = 未達成  = 新規事業

## 1 交流人口



## サービス継続で増える交流人口

2020年度は新型コロナウイルスの影響下ではありましたが、利用者の生活を止めないことを目標にサービスを継続しました。感染予防対策を行い、代替えサービスに切り替えるなどの対策を取りました。それでも来所数は減少傾向にありましたが、代わりに電話相談件数が増え、その結果交流人口の増加に繋がりました。相談支援が、地域生活において、重要な役割の一つであることを再認識しました。

次年度は、相談支援体制を整えるとともに、コロナウイルスを想定したサービスを充実させ、さらなる交流の場を提供していきます。



交流人口  
**16,682名**  
2019年度  
14,430名  
2,252名 増加



## 2 地域活動 支援センター



## 障がいにとらわれない共生社会を目指して

全登録者数における講習会の利用率は増加しましたが、定員充足率が減少傾向にあることが、課題として見えてきました。今後は、多くの人に利用してもらえるよう、講習会自体の運営の見直しを図り、定員充足率及び利用率を向上させていきたいと思えます。

2019年度から引き続き、障がいの有無に関わらず広く千代田区に関わる方たちが参加できる「公開講座」を開催しました。コロナ禍にも関わらず、2019年度に比べほぼ横ばいの39回開講、のべ295名が参加しました。そのほか、他事業と一緒に、パソコンサロン、パン販売、ネイルサロンを実施し交流を深めました。



講習会利用率  
**54.1%**  
2019年度  
45.3%  
8.8% 増加



### 3 ぷらっと御茶ノ水



#### こころの相談

2名

2019年度  
50名  
48名 減少



## ぷらっと気楽に過ごせる場所に

2020年度より、こころの相談を基幹型の相談として対応しているため、相談者数が減少しています。

また、他事業との共同プログラムであるパソコンサロンやネイルサロン等も開催しました。しかし、ぷらっと御茶ノ水の利用者の参加は1名という結果となり、企画し発信することに課題を感じています。

今後は、日中在宅者や就労者といったターゲットをより明確化したイベント、えみふるに立ち寄りたいたいと思えるような居場所づくりを行っていきます。



### 4 日中一時



#### 参加者数

1,095名



## 利用者ニーズに合わせた新サービス

2020年4月の緊急事態宣言の影響でサービスを休止していたため、利用者数が減少しました。しかしその間にも何か利用者にサービスが提供できないかと考え、「預かり支援」を行いました。のべ40名の参加があり、改めてスマイルちよだの意義を確認することができました。

スマイルちよだのほかにも、レスパイトとタイムケアという2つの事業を新たに開始し、利用者の様々なニーズに合わせたサービスの選択ができるようになりました。今後も細かなニーズに対応できるようサービスを展開していきます。



### 5 グループホーム



#### 利用率

85.6%

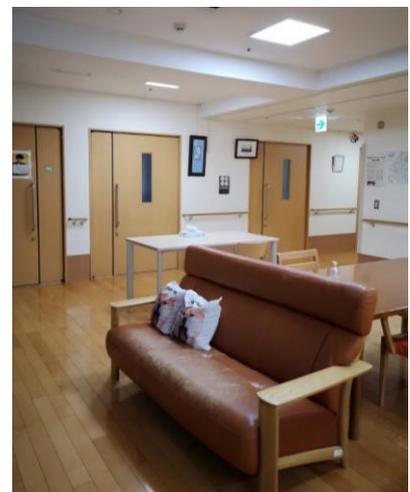
2019年度  
87.5%  
1.9% 減少



## 利用率100%を実現

2020年度は利用者の定員に1名空きが出たため、「広報千代田」で募集をかけ、1名の入居が決定しました。新年度より入居する予定で、年度末には利用率は100%となります。利用率100%は職員で連携し実施した広報の成果と捉えています。

えみふるが地域で自立して生活していくための選択肢の一つとなるように、季節を感じられるイベントを企画し、えみふるに入りたい、居て良かった、居続けたいと思ってもらえるように工夫していきます。



## 6 ショートステイ



# 柔軟な受け入れ体制の構築

新型コロナウイルス感染拡大の影響による利用の自粛や、他区の利用を一時中止していたことにより、利用率が減少しました。

目標の100%へは到達していませんが、空きがあることにより、急な利用への対応が可能になったという利点もありました。区民の緊急の受け入れの場としても機能することができるよう工夫していきます。



利用率

**75.9%**

2019年度  
89.4%  
13.5% 減少



## 7 生活介護



# プログラム強化へ向けて

緊急事態宣言下での利用の自粛や、利用者その他施設の利用が増えたため、サービス利用率が減少しました。そこで室内でのプログラムを強化しました。講師を招へいた陶芸教室、Web環境を使用したプログラム、地域活動支援センターとの合同プログラム、地域へ向けてのパン販売等を行いました。

目標の50%達成へ向けて、まずは利用者の利用率向上を目標とし、プログラムの見直しを行います。室内だけでなく、外出プログラムの充実を図ります。さらに地域との関わりを重視したプログラムを展開し、利用者が役割を感じ、生きがいややりがいへと繋がるようにします。



利用率

**38.5%**

2019年度  
42.9%  
4.4% 減少



## 8 基幹型 相談支援



# 基幹型相談スタート

2020年度は、日々の相談受付のほか、セルフプランの利用者に対しても日常的な支援を行いました。セルフプランの利用者にも、特定相談と同等の継続したサービスを提供し、地域で孤立しないように工夫しました。しかし、新規相談者からの継続的な相談へ繋がったケースがほとんどなく、目標の500件にはまだ達していません。これは2020年度からスタートした「基幹型相談」の認知の低さが原因の一つであると考えます。

2021年度は、もう一つの目標であるアウトリーチ活動の強化も行いながら、千代田区の基幹型相談施設として認知度向上に努めていきます。



相談件数合計

**116件**



## 9 特定相談 (計画相談)



相談件数合計

**5,042件**

2019年度  
合計3,899件  
1,143件 増加



## 新規利用者を受け入れる体制へ

2020年度は、職員の外出自粛もあり訪問相談件数が291件の減少となりましたが、電話での相談は327件増加する結果となり、合計して36件の増加となりました。中には、何気ない話をしてくれる利用者もおり、えみふるがより身近な存在になってきていることがわかります。

また、相談員一人当たりの担当ケース数の調整を行い、24件全件の新規利用者の受け入れを達成することができました。区内の相談支援事業所は限られているため、今後も受け入れをできるよう調整していきます。



## 10 社会貢献



養蜂  
ボランティア  
参加

**6回**



## 養蜂事業からひろがるつながり

明治大学のゼミ活動で行われている養蜂活動にボランティアで参加し、巣箱の内検作業、瓶詰め作業を行い、明治大学の学生さんとも交流を深めました。今後は、地域との連携や交流ができる利用者の社会参加の場となれるよう、えみふるの巣箱の設置を目指します。

また、ちよだコミュニティラボライブへ参加し、新しい力を生み出す基盤づくりのため、地域での活動の可能性について話し合いました。



## 11 企業との 連携強化



企業との連携

**5社**

2019年度  
4社  
1社 増加



## 地域共生社会の実現へ

企業とお互いにできることを模索、新たな連携(利用者との交流、ボランティア活動、利用者の作品展示、生活介護との共同プロジェクトなど)へと発展しました。

今後は、企業と連携して、障がい者が社会との関わりを積極的に持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられる地域共生社会の実現を目指します。



## 12 大学との連携強化



大学との連携  
2校



## コロナ禍でもつながる

昨年度から区内大学のボランティアサークルとイベント開催等でつながりができていましたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響でそれらの活動が中断となりました。

しかし、これまでのつながりを活かし、大学にある期限切れ間近の災害用備蓄品の活用、学生ボランティア団体による演奏会のDVD提供等、2校との継続的なつながりを持つことができました。また、養蜂場所の提供、災害時の対応を検討する会等、活動の広がりも見せています。



## 13 アダプテッド・スポーツ



アダプテッド・  
スポーツの  
普及講座

3回



## アダプテッド・スポーツの普及

2020東京オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、地域へのアダプテッド・スポーツ普及のため、講師を招いての「ボッチャ」講座を3回開講しました。

また、東京都障害者スポーツ協会とも連携し、障害者スポーツ普及啓発パネル5枚とタパストリー1枚を借用し、館内展示を行いました。

12月には講師を依頼し、職員のアダプテッド・スポーツに対する理解を深めました。



## 14 人材育成



実習生等  
受け入れ

計11名

2019年度  
計13名  
2名 減少



## カリキュラム見直しで指導の質向上

支援の質の向上を図るため、実習カリキュラムの見直し、Web講義の活用により、職員の支援のバラつきを是正していきました。また、新カリキュラムを作成したことで、1日4名までの受け入れが可能となりました。

感染症対策で、受け入れ人数の制限、学校から辞退の申し出があったことにより、実習受け入れ数は減少しました。今後は、新カリキュラムをもとに、質の検証と対応ができる職員の育成を行っていきます。



## 15 ボランティア



ボランティア数

**144名**

2019年度  
107名  
37名 増加



## ボランティアも輝ける場づくり

コロナ禍でもボランティアの受け入れを行っていたため新規ボランティアが増加しました。ボランティアもえみふるの一員であるとの考えから、ボランティアの活動の様子もSNSで発信しています。SNSを見た方から問い合わせがあり、新たなボランティアへと繋がっています。

利用者と一緒に楽しむことに加え、自身の特技を活かし講師を行うなど、ボランティア自身も輝ける場となっています。今後は、活動や時間を見直し、受け皿を増やす取り組みを行います。



## 16 障がい者文化の発信



障がい者アート  
入賞

**2作品**

NEW

## 障がい者アートの拠点になる

えみふるでは、アーティストとして利用者の作品を広く区内企業や関係団体へ出展しています。

「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」にスマイルちよだから4名の作品を応募し、2作品が入賞しました。また、生活介護で制作した作品を「ゆめびっく2020宇宙桜グランプリ」へ応募し、入賞しました。

さらに法人内の千代田・文京地区で連携し、共同でアトリエ教室も月2回えみふるで開催しています。アートと親しむ利用者を今後も支援し続けます。



## 17 福祉防災機能



受け入れ  
可能人数

**42名**

NEW

## 福祉避難所として

2020年より区の福祉総務課と区民のみならず、昼間区民の生命・財産・生活を守るため災害が発生した際に応急体制を整えられるように福祉避難所として準備を進めています。

12月にちよだモデルネットワークの学習会に参加し、被災した際の困りごと等を実体験から学ぶことができました。

さらに幹事会に登録し、地域の災害対策について関係機関や団体、企業、大学等と連携して課題把握、自分たちには何ができ、何をしなければならないのか等を検討しています。





## 武蔵野会基本理念

# 自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ

講習会・公開講座

作業療法(定員:14人)

理学療法(定員:1日当たり6名)

言語療法(定員:1日当たり4名)

地域生活リハビリ・高次脳機能障害者リハビリ(定員:5名)

社会適応支援・就労をしている障害者向け(定員:10名)

療浴サービス(自立浴、半自立浴、機械浴)

団体利用(会場の貸出)

ぶらっと御茶ノ水(サロンドウちよだ)・心の病を抱えた方向けのサービス

日中一時支援事業(スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア)

グループホームふぁみりあ(定員:4名)

ショートステイふぁみりあ(定員:1日当たり4名)

生活介護事業(定員:20名)

基幹型相談支援事業

特定相談支援事業(計画相談)

社会福祉法人 武蔵野会

千代田区立障害者福祉センターえみふる

発行:2021年7月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目5

TEL : 03-3291-0600

FAX : 03-3291-0608

Email : emifuru@chime.ocn.ne.jp

公式サイト



<https://emifuru.com/>

twitter



Instagram



facebook

